

会議録

会議の名称	子ども子育て審議会児童館等再編成専門部会（平成30年度第2回）
開催日時	平成30年7月30日（月曜日）午後7時から8時40分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階 503会議室
出席者	【部会員】 林部会長、大橋部会員、尾崎部会員、島崎部会員、蓮見部会員 【事務局】 子育て支援部長 保谷、子育て支援部参与兼子育て支援課長 飯島、児童青少年課長 原島、児童青少年課長補佐 國府方、保谷柳沢児童館長 増田、田無柳沢児童センター長 町田、児童青少年課児童青少年係 菅原、高橋
議題	議題1 （1）児童館等再編成方針骨子（案）に対する意見について （2）児童館等再編成方針（素案）について 議題2 その他
会議資料の名称	資料1 児童館等再編成方針（素案） 委員提出資料1 児童館等再編成方針骨子（案）に対する意見
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1. 児童館等再編成方針骨子（案）に対する意見について</p> <p>○林部会長：</p> <p>前回の専門部会で事務局より説明のあった「児童館等再編成方針骨子（案）」について、尾崎部会員より委員提出資料1のとおり意見があった。尾崎部会員から補足説明があればお願いしたい。</p> <p>○尾崎部会員：</p> <p>（委員提出資料1について説明）</p> <p>各部会員が事前に資料を読んでいたということなので、全文ではなく項目ごとに説明する。</p> <p>①学童クラブは児童館併設・単設どちらも必要であり、併せて鉄道駅近くの学童クラブも必要である。</p> <p>②学童クラブの立地については、学校内の敷地に別の建物を設置する方が、学校校舎内の学童クラブと比較して理想的である。学校校舎内だと、いったん校舎を出てから学童クラブに入りなおす必要があったり、学校設備を自由に利用できないなどの運用上のデメリットがある。</p> <p>③児童館の一般利用が伸びていないのは学童クラブの児童で溢れているから、との説明が前回の専門部会であったが、それが理由ではなく、児童館への来館のきっかけがないためだと考える。来館のきっかけとして、(1)学童クラブへの小学5・6年生の受け入れ、(2)出前児童館の実施や放課後子ども教室への児童館職員の参画により、子どもたちが児童館職員と顔見知りになること、(3)児童館へのランドセル来館の実施を提案したい。</p> <p>④学童クラブの定員超過により児童館の利用比率が上がっている面があるため、学童クラブの支援単位を増やす必要がある。</p> <p>⑤児童館の開館時間と利用者ニーズの関係について、データを取って分析すべきである。</p>	

⑥児童館の施設を減らすことは子どもの居場所の保障に繋がらない。中学校区に1館といった数の問題ではない。

⑦南部地域の再編に関しては、統廃合を前提とするのではなく、施設数を維持した上で特化型児童館の設置が必要である。

○林部会長：

今の説明に対し、質問等はあるか。

○蓮見部会員：

③のランドセル来館のメリットは何か。

○尾崎部会員：

例えば、小学校から児童館を通り過ぎて自宅に帰るという位置関係にある場合、いったん家に帰るために広い道路を渡らなければならないということもあり得る。自宅に帰らずに児童館に来館することが出来れば、安全上のメリットがある。

○林部会長：

尾崎部会員からの意見については、これからの部会での議論の中で反映できるものは反映させたいと考える。ただ、全てを盛り込むことは、様々な条件もあり、難しい面もあると思われる。この意見については、市からの回答を求めるものではなく、今後、これを踏まえて議論してほしいという趣旨でよいか。

○尾崎部会員：

はい。

2. 児童館等再編成方針（素案）について

（資料1に基づき事務局から説明）

○事務局：

資料1「児童館等再編成方針（素案）」は、前回の専門部会で説明した児童館等再編成方針骨子（案）に沿って、課題や対応の達成のための、これからの方向性を示したものである。

○林部会長：

今の説明に対し、質問や意見はあるか。

○尾崎部会員：

資料の後ろに記載されている「児童館・学童クラブ関係資料」について、わかりにくい箇所があるので、何点か指摘したい。

①13ページの1から3に児童館の来館者数が記載されているが、児童館によって規模が異なるので、各館の床面積を入れてもらいたい。規模の違いが分からないと比較ができない。

②14ページの5に年代別の来館者数があるが、児童館での滞在時間も記載できないか。例えば乳幼児と学童クラブの子では、滞在時間も異なると考えられる。

③15ページの学童クラブの定員及び在籍数の資料にも、児童館と同様に施設の床面積を入れてもらいたい。

④16ページの児童館管轄学童クラブ実施場所区分は、小学校内の学童クラブが、どの小学校なのかを明記したほうが分かりやすい。また、みどり学童クラブが単設となっているが、集会所併設ではないか。

⑤17ページの児童館配置状況図は、児童館は中学校区ごとに1つとの説明があったので、どの中学校区にあるのかを記載してほしい。

○蓮見部会員：

14ページに年代別の児童館来館者数が記載されているが、この数字が多いのか少ないのかが判断できない。また、3ページに今後、人口が減少していくとの説明があるが、共働き世帯が増えているのに、学童クラブの設置が追いついていないと感じた。

○林部会長：

児童館での滞在時間については、特に市で記録は取っていないと思うが、何かよい方法はあるのか。これからデータを取るとなるとかなりの事務量になるが、何のために必要なのか。

○尾崎部会員：

滞在時間によって、例えば乳幼児と小学生の利用時間が重複するなど、完全に利用時間が分けられない状況が発生する。平日と休日や、小学校の学期中と長期休暇中など時期によって異なると思うので、それを念頭においてサンプル調査等でデータを取ってもらえればと思う。

○林部会長：

私の理解が追いついていない部分もあるが、滞在時間のデータをどのように利用するのか。

○島崎部会員：

尾崎部会員の意見は、年代別に利用時間を区切るということに関して、各年代の滞在時間が分かった方が良いとの趣旨か。

○尾崎部会員：

午前は乳幼児、午後は小学生、夜間は中高生など、それぞれ利用時間のピークはあると思うが、完全には線引きできず、重なる時間帯もあると思う。ニーズの把握という意味で、データがあった方が良く考える。

○蓮見部会員：

児童館としてどのくらい来館してほしいのか、あるいは学校としてどのくらい児童館に行ってほしいのか、といった目標はあるのか。

○林部会長：

市として来館者の年間目標を立てているのか。図書館でいう貸出資料数の目標のようなものはあるのか。

○事務局：

明確な人数の目標はないが、各館で前年度の実績を下回らないというのは目指している。

○林部会長：

今後、年少人口が減っていく中で前年を下回らないというのは厳しいのではないかとと思われるが……。子どもが減っていく中、同じ事をやっていては来館者は増えない。どうすれば魅力のある児童館としてやっていけるのか、この部会の中でも議論が必要だと考える。

○蓮見部会員：

来館者が多いのか少ないのかが分からないと、どうすれば魅力的な児童館になるのかが分からないと思う。

○林部会長：

再編成方針の第4章「今後の取組の方向性」では、児童館を機能別に3区分に再編するとの方針が示されているが、この内容に関して何か意見はあるか。

○尾崎部会員：

第4章の冒頭で「個々の児童館については…現在の運営を維持していきます」とあるが、同じページの下には「統廃合も検討します」と記載されている。統廃合するのか現状維持なのか、よく分からない。また、地域型児童館は今後委託化をしていく方針とあるが、統廃合が検討されている児童館の委託を受けてくれる事業者がいるのか疑問である。

○島崎部会員：

先日、南部地域の児童館を見てきたが、どこの児童館も乳幼児を連れのお母さんが来ていた。小学生などは自転車で来館できるが、乳幼児を連れた人はそうもいかない。その児童館を頼っている人がいるうちは、統廃合はできないのではないかと。

いつでも行って遊べる児童館であれば子どもは来ると思うが、いつも学童の子ばかりだと乳幼児を連れのお母さんなどは来館しづらくなる。

また、南部地域は児童館同士が近いこともあり、新町児童館が使えない日は田無柳沢児童センターに行く、といった利用の仕方をしているお母さんもいた。

○蓮見部会員：

児童館にベビーカーで行けるといえるのは大切なことで、それによって親同士が友人になるなど、繋がりが生まれることもある。

○林部会長：

季節による利用者数の傾向も把握したいので、月別の児童館利用者の数字が出せるのであれば出してほしい。

○大橋部会員：

先ほど、児童館の統廃合をするのかしないのか、という話があったが、私としては、特化型児童館を前提として、既存の児童館を統廃合して設置するという趣旨だと理解している。学校も同じだが、施設が老朽化してくると色々なところが破損して多くの維持費が掛かってくる。そういった地域型児童館を修繕したり建て替えたりするよりは、特化型にシフトしたいということではないかと思う。

○林部会長：

大橋委員は、そのことに対しどう考えているか。

○大橋部会員：

本来は、地域ごとに各年代が行きやすい児童館があるべきだと思う。ただ、老朽化している館があるのも事実で、それを建て替える費用を掛けるのであれば、維持費等を考えて大きめの特化型を1つ建てた方がよいという考えもある。そうすると乳幼児を連れのお母さんなどにとって使いづらくなるといったことは生じるが、全ての要望を満たすというのはおそらく不可能で、どれを取るかという選択になる。小さくても各地域に児童館があって、ブロックごとに大型の特化型もあるというのが理想だが、それができるような状況ではない。

○蓮見部会員：

小学生にとっては、歩いて行けるところに居場所があるというのが大事で、保護者もその方が安心できる。小学校の近くに行きやすい施設があれば理想的である。

○林部会長：

それは児童館と学童クラブ両方のことか。

○蓮見部会員：

両方とも、小学校の近くにあればよいと思う。

○大橋部会員：

他市から来たというものもあるが、学童クラブというと、基本的に小学校単位で設置されているという印象があった。小学校以外の場所にあるというのは、あまり考えていなかった。

○林部会長：

基本は小学校単位だが、共働き世帯が増えていることにより、小学校以外の場所に設置しても整備が間に合っていない状況にあると思われる。

○尾崎部会員：

以前、泉小学校の廃校と同時に泉学童クラブも廃止になった。そこに通っていた児童が保谷小学校内にある本町学童クラブに移動した結果、本町学童の超過率が高くなったという経緯がある。学童クラブの廃止により、他の学童クラブにも影響が出ることを考えると、定員超過の状況にある南部地域の統廃合は厳しいのではないか。

また、資料17ページの児童館配置状況図に点線で区切られている部分があるが、この線は南部地域の境界を示しているものなのか。

○事務局：

資料を修正する際に、削除が漏れてしまったものである。

○尾崎部会員：

そうすると、南部地域の児童館というのは、この点線の北側にある田無児童館も含めた5館だと思われる。田無児童館は忘れがちなので、地域を正確に区分して記載するようお願いしたい。

また、小学校との位置関係から考えると、どの館も廃止になると大きな道路や線路があって通いづらくなると思う。

○林部会長：

素案の中で、特化型児童館の取組内容だけに「子どもの意見表明」が挙げられているが、地域型児童館や基幹型児童館の取組内容にも同様に明記すべきではないかと考える。

○林部会長：

素案では、今後、基幹型児童館は公設公営、特化型と地域型は公設民営とするとの考えが示されているが、これについては何か意見はあるか。

○尾崎部会員：

9ページに「併設学童クラブにおいては、委託化により時間延長等サービスの拡充」とあるが、終了時間の延長のほかに、朝の開始時間の前倒しも委託しないとできないことなのか確認したい。現状では、公設公営の学童クラブでは、原則8時30分開所のところ、試行として8時15分に開所していると聞いている。

○事務局：

今後、委託化を検討する中で時間の延長も含めて考えていく。

○尾崎部会員：

いつまでも試行ではなく、本実施にしてもらいたい。

○林部会長：

前回の部会でも議題になったが、中高生からの意見聴取についてどうするのかを考えたい。高校生については、10月以降「中高生年代プロジェクト」で高校生が集まる機会があると事務局から聞いているので、そのときに児童館等に関して意見を聴くことが出来ると思う。中学生については、どのように実施したらよいか。

○大橋部会員：

教育計画策定のために教育委員会で実施したアンケートの中で、中高生も含めて幅広く意見を聴いているので、そこから抽出できる項目もあると思う。また、意見を聴くのであれば、児童館を利用しない中学生だとあまり実感が湧かないので、実際に特化型児童館を利用している子に聴くべきではないか。

○林部会長：

地域型児童館の中では、保谷柳沢児童館が中高生の利用者数が多いので、そこで意見を聴くというのもあり得る。

全体を通して、他に何かあるか。

○大橋部会員：

特化型児童館の設置数について、南部地域に1館だと非常に範囲が広がる。費用面で厳しいとは思いますが、全部で4館あれば地域的なバランスは良くなると思う。

○林部会長：

以上で本日の会議は終了とする。